

内閣総理大臣 岸田文雄 様  
外務大臣 上川陽子 様

2024年2月16日  
新日本婦人の会会長 米山淳子

イスラエルに対しラファへの地上侵攻中止と即時停戦を  
はたらきかけるとともに、UNRWA への支援を再開するよう求めます

イスラエルによるパレスチナ自治区ガザへの軍事攻撃開始から4カ月、ガザ市民の死者は2万8000人を超え、人道の危機と言われる状況が続く中、ネタニヤフ首相は「最終的な勝利に向けて軍事行動を継続する」と宣言し、ガザ南部ラファへの侵攻を強行する構えです。100万を超える人々が避難するラファに大規模攻撃をおこなえば、逃げ場のない住民の大量殺りくになることは火を見るより明らかです。国際社会は一致して「ラファ攻撃やめよ」と声を上げ、あらゆる手を尽くしてイスラエルの手を止めなければなりません。

日本政府は、昨年12月の人道的停戦を求める国連総会決議に賛成しました。今こそ、この決議の実現へ行動するときです。私たちはこれまでも、憲法9条があることで信頼されイスラエルともアラブ諸国とも関係を持つ国として、この理念にもとづく平和外交で危機を乗り越える先頭に立つよう求めてきました。ただちに、イスラエルにラファ攻撃中止と即時停戦をはたらきかけるよう、あらためて求めます。

イスラム系組織ハマスによる民間人襲撃に一部職員が関与したとの指摘を受け、今年1月末、アメリカが国連パレスチナ難民救済事業機関（UNRWA）への資金拠出の停止を表明しました。欧米諸国や日本も同調し、支援活動が困難に陥っています。ハマスの行為は許されませんが、それを理由にパレスチナ難民、とりわけ完全封鎖の下におかれているガザの人々の命綱を断ち切るようなことをしてはなりません。占領国として義務づけられている住民保護を放棄するイスラエル、そのイスラエルを政治的、軍事的に支援するアメリカの責任は重大で、それに同調する日本の姿勢も問われます。ただちに UNRWA への資金拠出を再開するよう、強く求めます。